

10-6 バッテリー交換



警告

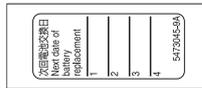
電池の落下、分解、加圧変形、+-の短絡、充電、100°C以上の加熱、および火への投入などは絶対にしないでください。電池が破裂、発火、液漏れを起こす恐れがあります。



お願い

- ・ バッテリー交換は、必ずPC本体が5分以上通電された後、行ってください（内部コンデンサ充電のため必要です）。
- ・ バッテリー交換は、必ずCPUユニットの電源を切ってから行ってください。
- ・ 時計機能付きCPUユニットの場合、メモリ消失を防止するため、交換は5分以内に行ってください。（時計機能なしCPUユニットの場合、スーパーコンデンサにより10日間（25°C）メモリを保持します。）
- ・ 保守性を考慮し、付属ラベルに、次回の交換予定時期を記録してください。ラベルは通信ポートカバーの内側または見やすい位置に貼り付けてください。

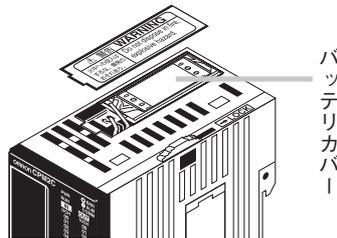
付属ラベル



- ・ 交換したバッテリーを廃棄する際は、条例などの規則に従ってください。

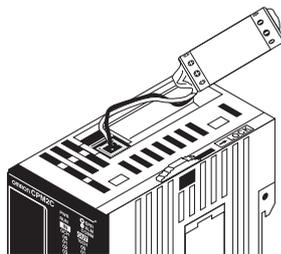
時計付きCPUユニットには、メモリバックアップバッテリーが内蔵されています（寿命2年間/25°C）。バッテリーの電圧が低下するとERR/ALM LEDが点滅し、25308がONします（P10-8参照）。電圧低下が確認されたときは7日以内に交換してください。バッテリーの交換手順は以下のとおりです。

1. CPM2Cの運転を停止させます。電源をOFFしてください。
2. バッテリーカバーを取り外します。



バッテリーカバー

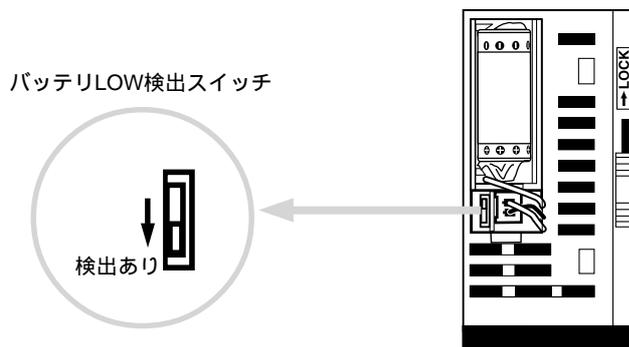
3. バッテリーを取り出し、コネクタを引き抜きます。



4. 新しいバッテリーを取り付けます。コネクタの方向を合わせて差し込み、コードがはみ出さないようにバッテリーを収めます。

10-6 バッテリ交換

5. バッテリLOW検出スイッチはユニット正面側「検出あり」に、またPCシステム設定エリアのDM6655の12～15ビットは「0」（電池異常を検出する）に設定してください



6. バッテリカバーを取り付けます。
7. 付属のラベルに、次回のバッテリー交換予定時刻を記載してください。
バッテリー寿命は時計機能付きCPU：2年間（25 ）、時計機能なしCPU：5年間（25 ）です。